

## 第 52 話 いただいたメール

私のキャンディデイトでサラリーマンを捨てて、田舎で有機野菜を作るべく農業を始めた若者夫婦がいます。まったくの未経験者ですので、その苦労は肉体的にも精神的にも大変ではと想像していました。そのキャンディデイトは 30 代前半の澁刺とした若者です。ちょっとしたきっかけで彼がそうした生活をしていることを知り、近況やそのきっかけを尋ねたところ、以下のようなメールをいただきました。皆様にとっても何かの参考になるのではと思います、ここでご紹介をさせていただきます。

---

今回のきっかけはいろいろとあったのですが..。全部書くと、長くなってしまいますので、短くまとめます。前に勤めていた IT 系の会社は去年に新興市場に上場を果たしました。株式公開はずっと私にとってひとつの目標だったため、大変に嬉しかったのですが、同時にこれからどうしようかと考え始めたのが去年の夏くらいでした。

世界をみてもみると、食料は高騰し、環境汚染は深刻化するわで、なんだか人類の未来はそんなに明るくないなと思い始めました。問題は深刻化しているのに、それを解決するようなテクノロジーが大して進化していない。

こりゃ、第三次産業で働いている場合ではなく、食べ物をつくらないと駄目だなと思ったのです。(ちょっと飛躍していますが、) そんな感じですので夢をもって農業にすすんだのではなく、消去法的に農業を選んだというのが正直なところですよ。

4 月に夫婦で、〇〇県の△△町という有名な避暑地から南へ 40 キロくらいのところで 60 種類くらいの有機野菜を栽培されている農家さんへ修行入りしました。

消去法で選んだ農業だったのですが、これがすごく楽しいですよ！

田舎暮らしといってもスローライフではなく、朝から晩までくたくたになるまで働くハードライフです。しかし、自然に囲まれた中でやる肉体労働(←人生初の肉体労働なのです)、美味しいご飯とあったかいお風呂、規則正しい生活は心も体も健康になってきます。妻もこちらの生活を楽しんでおり、毎日こちらにきて良かったねと話をしております。

いまは研修中の身ですが、来年には独立し、夏くらいから出荷を始めます。無農薬有機でつくったお野菜とお米を個人の方や、レストランなんかにお届けしようと思っています。

給料をもらう身から、自分で稼いでいかなくてはならないので、身が引き締まります。

おいしいお野菜ができれば、竹氏さまにはぜひ食べていただきたいと思います。

今後ともよろしくおねがいいたします。

---

彼のメールを読んでいると日本の将来も捨てたものではない、と感じると同時に、都会、特に東京での生活が本当にいいのかな？といった疑問すら感じてしまいます。特に、『田舎暮らしといってもスローライフではなく、朝から晩までくたくたになるまで働くハードライフです。しかし、自然に囲まれた中でやる肉体労働(←人生初の肉体労働なのです)、美味しいご飯とあったかいお風呂、規則正しい生活は心も体も健康になってきます。』というくだりに、都会であくせく働いている我々には味わうことのできない人間本来の自然な喜びが、体一杯に感じられるのです。少し考えさせられたメールでした。

ファウンダー&パートナー 竹氏 彰